増補
頭書
訓蒙図彙大成
九

頭書增補訓蒙圖彙巻之二十

花草

此部にハもろ〳〵の草花なきをも

○牡丹ハふかみぐさともなとりぐさともいふ花乃王とよぶ花多し紅白あり紅をよしとし白を上品とす花の冨貴なるものなりと古人も賞せり一名花王又木芍薬といふ牡丹皮とて薬に用ゆ

なとりぐさ

牡丹

ふかみぐさ

○芍薬は三枝五葉あり花牡丹に似てちいさし中きし臺の神に花さく紅白紫あり花相將離といふ根を薬に用ゆ
○櫻草は葉は蕪菁の如くにして小し花は紫に白あり三月花さく

芍薬（しやくやく）かほよぐさ

櫻草（さくらさう）

○葵は総名なり葉大にして花も紅紫白あり五月花さく実は大さ指のごとくかつまるくして扁なり

○蜀葵はからあふひひとへあり花千葉ありこき紅別してうるはし菺葵同じ又戎葵ともいふ

○錦葵はこあふひなりまた荍葵とも云荊葵同

錦葵 こあふひ

葵 あふひ

蜀葵 からあふひ

○芙蓉ハ葉葵のごとく花紅白ニ一重八重あり又ハ木槿に似て大なり清く美なり七月花さく

○龍膽ハ花桔梗の花[illegible]のごとく葉ハ笹のごとし九月のころ花さく俗にりんどうといふ

芙蓉

龍膽 えやみぐさ

○秋葵は一名黄蜀葵といふ又側金盞華ともいふ葉はあさのごとくきざみあり秋すゑ黄なる花さく俗にとろゝ○莠は稷に似て実なし一名狗尾草と禾粟の中に生ず俗にゑのころ草といふ○金銭花は午時花ともいふ秋花さくひるにさかる一名子午花

○蘭ハ茎むら
さきは葉みどり
なり水沢のほと
りに生じ花黄
白にしてかうばし
蘭ハ品類多し
○風蘭ハ一名を
桂蘭とも吊蘭
ともいふ其類ハ
岩蘭岩石蘭
などいふあり

蘭

風蘭

○鷄冠ハ葉莧に似て少し長く茎赤し花も赤黄又ハ白あり五六七月花さく草後にてあり鷄頭花とも書なり

○秋海棠ハ秋花さくうを紅にて茎葉ともに色あかきなり

秋海棠

雞冠

けいとうげ

○剪秋羅ハ花石竹のごとく朱色にして美なり六月花咲ふし黒くして本ハ此類也
○剪春羅ハ花の色せんとうより薄く黄ミあり
○薏苡ハ子白と黒あり薏苡子として五臓を治と

剪秋羅（せんおうけ）せんとうげ

剪春羅（せんちゆんら）がんひ

薏苡（よくい）ずずだま

○百合ハ品類多し
此花三月末より咲
紅白と紅あり
○巻丹ハ六七月ニ
花さく花ニして黄
赤し丈六尺もち
のびし花多くさく
葉のもとにくろき実
となる一名番山丹
○山丹ハ四月初ニ
花さく小くして赤
白又赤ハ極紫也
うるはし 渥丹同
此外数多くあり

百合 ゆり

巻丹 おにゆり

山丹 ひめゆり

○他偸ハ四月の末より花さく其品多し花黄なるあり白なる花もあり稀にくろき花又秋さく花もあり

○麗春ハ三月に花さく一重ハ千紅也千重ハ紅より色をつま白し一名仙女蕎又御仙花といふ

他偸 えびね

麗春 びじんさう

○金盞花ハ花のかたち盞の如し色赤し三月花さく今俗ニて金銭花といふ金銭花ハ別種なり
○春菊ハ花白く中心黄なり三月花さく蒿菜花といふをくへの時食を

○蒲公英ハ花白きも又あり黄なるハ常なり二三月に花さく葉ハ茹して食す

○菫菜ハ一名箭頭草と云ふとも むらさきの花咲白花又ハ紫乃もの葉ハ丸くふ也

○虎杖ハ月水を通利し瘀血を破る渇を止め小便を利腹中の湧を除

蒲公英 たんぽゝ

菫菜 すみれ

虎杖 いたどり

○萱草は花巻丹のごとく黄赤く初夏に咲春若葉ゆでて食せば水氣乳よ(う)ちを痛を治す食すれば清をこのんでそうが眠てよきむかし花子は(の)りのは毒ありおやゆりて食ぺうば
○酢漿は一名酸草といふ俗に云すいものぐさ

○射干はひあふぎともいふ葉のかたち檜扇に似たり花は黄赤し六月花さく烏扇烏蒲なしびに同

○蝴蝶花は射干の類なり三月白き花咲黄を中にあり俗にやぶらんといふしやがは射干の音を誤しものなり

○夏枯草は野あり多し薄紫花咲

射干 しやん ひあふぎ

蝴蝶花 しやが

夏枯草 うつぼぐさ

○鳶尾は葉は射
干に似て花は
むらさき也白き花
を紫羅傘と
いふ四月花さく
○馬藺は沢邊
に生ず氣臣
花はあやめに似て小
さく細し色もうすし
馬楝ともいふ麦
の初に花さく

鳶尾　いちはつ
鴨脚花

馬藺

○杜若ハ水中ニ生ず花大ニして色桔梗の花に似てにくろハし葉のさしのに花さく

○菖蒲ハ花杜若に似て小さく葉も細し又菖蒲と云ハ別種也花なし又花菖蒲と云も一種也

杜若 かきつばた

菖蒲 しやうぶ あやめ

○様錦(もみぢぐさ)は六七月
葉(は)紅(くれなゐ)なり黄緑(きみどり)
色(いろ)のまじるを十様(じふやう)
錦(きん)といふ又雁来(がんらい)て
紅(くれなゐ)なるを雁来紅(がんらいこう)
といふ俗(ぞく)に葉鶏頭(はげいとう)と
いふなり
○桔梗(ききやう)は花紫(むらさき)色
白あり一重(ひとへ)なるあき
移なる六月にひらく
又梗草(こうさう)となづく

様錦(やうきん)
もみぢぐさ

桔梗(きちかう)
ききやう

○烏頭ハ花きき
やうの花の色あり
かたち烏の頭に如
し亦とりかぶと
ろくさちに似たり
九月花さく
○鳳仙花ハ花紅
白あるも七月にさか
さく又金鳳花と
いふ花に黄紫
あり

鳳仙花

烏頭
とりかぶと

○番椒ハせんきを治し虫ところす人ハどくなし

○丈菊ハ一名ハ迎陽花といふ日輪にむかふ花なりよつて日車とも云花菊に似て大也色黄にて白きもあるも

○杜蘅ハ葉ハ馬蹄に似たり紫の花咲馬蹄香土細辛といふ

番椒 たうがらし

丈菊 てんがいばな

杜蘅 つぶねぐさ

○薔薇ハ花に紅白黄あり又千重のものは牡丹いばらといひ一季あるを荊薔薇と云一名月季又長春ともいふ

○慎火ハ一名景天又ハ戒火ともいふまかなは佛甲草をいふなり

○苔蘚同水に生と陟釐と云石に生るは石濡屋に生を屋遊墻に垣衣と云

○酸漿ハ五月より
白き花咲実ハ赤
くまろうねどし
よつて金燈籠と云
○旋覆ハ葉ハ艾を
ろ花ハ黄にしてく
菊に似たり六月よ
花さく又九月よむ
らさきの花さくを
紫菀といふ是も
古今集に花あり

○藤ハ三月の末に花さく色紫ハおそく花の長三四五尺にも及ぶ白花ハ早くさきて短し一名招豆藤

○石斛ハ石上に生ず胃の氣を平にし皮膚の邪熱をさる一名石蓫

藤 ふぢ

石斛 せきこく

○棣棠ハ花黄にして一重有八重有三月花さくおもひハ地棠花とかく

○巻栢ハ一名を地栢とも云石間に生ス生にて用ゆるハ血を破炙るハ血を止

○玉栢ハ一名万年松とも云長きを石松又玉遂ともいふ

棣棠 やまぶき

巻栢 いはひば

玉栢 まんねんぐさ

○葦ハ水辺に生ず いまだ秀ざる紙芦といひ長成ものを葦と云 葉ハ竹に似て花ハ荻のごとし

○蓮ハ花紅白あり葉を荷といひ根を藕といひ花を芙蓉といひ実を蓮菂といふ

葦(い) あし

蓮(れん) はちす

○菖ハ一寸九節なるもの佳し菖蒲と名付冬至の後五十七日ニてもじめて生ず
○菰ハ水きハに生ず菖わくらう一名茭草又蒋草と云
○蒲ハ水きハに生を筵ニ織べし蒲槌のまかこ花上の黄粉を蒲黄と云
○萍ハ水上にあり て根なし血色ニ如

くなきで是萍と云

○莎ハ水邊に生ず
香附子の苗なり
一名莎沙白薹

○藺ハ沢地に生ず
茎葉ハ細く長し
麻痛に効あり是也

○芡ハ中を補ひ気
をまし多く食ハ風
氣を起すを更
と芡實といふ

○藎ハ九月十月に
黄緑色の絹を染
一名黄草菉竹王芻

○蕰ハ水底に生ず
茎ハ釵のごとし上青
く下白し葉ハ

莎 すげ

藺 ゐ

芡 みづぶき

藎 かりやす

蕰 も

葉に紫ふあるは紅荇
おなし
○荊芥ハ莖ふとく毛ありて葉に黄あり
實もちいさくなり、
○蘇ハくさき香ありて葉はまるく齒あり
又紫あり桂荏同
實も葉も藥種になる也
○蓼ハちくらん紋
やゝ水氣面にぐき
ふるを蓼目といふを
○萹蓄ハ二月よりちいさき赤き花を
生ずと和名ふいふ
き扁竹同

葒 こう けたで

萹蓄 へんちく にく

蘇 そ のえ しそ

蓼 れう たで

水蓼 すいれう やなぎたで

○菊ハ百種あり
花も数品ありてづ
痛目眩などによし
し年をのぶると
いへり薬にハ黄色
なる菊よし種あり
○芒ハ薄の事なり
皮ハ縄又ハ履につ
くるなり又石芒
小芒芭芒ともいふ
○荏ハ白蘇とも
いふ山野に多く
生ず油にかはし
えのあぶらといふ

芒 すすき をばな まくさ

菊 きく

女郎花 をみなへし

荏 え え くさ

○牽牛は葉三
尖あり花はむらさ
き白はしぼり
あさぎ此外花出
て紅緑飛入花形
も品々あり
○鼓子は花のちさ
き車中に咲鼓子
のごとし故に鼓子
花といふ又旋葍
花ともいふ
○蒴藋は枝ごとに
五葉花白く実
青く緑豆のごとし
痛所に生葉を付
薬にはせんじてよし
一名接骨草

鼓子 ひるがほ

牽牛 あさがほ

蒴藋 そくづ

○水仙花ハ冬
初より花ひらき
初春まで花さき
くらら酒盃の如く
黄白の物を其花び
らは白しまろく全
盞銀臺といへ
葉かハ石蒜にゝる
○麦門冬ハ正月
みどりをひらく花の
花ひらく実緑に
ちゝく珠のごとく丸
し秋のはじめる比
根と葉を用ゆ

すいせんくわ
水仙花

ばくもんとう
麥門冬
やぶらん（？）ひげ

○瞿麦は花の色薄むらさき六月にさく河原に多し之を此は新花あり色もふくあり
○石竹は撫子にゝたり細くて花紅白又は縫など種くあり又六月に花さく一重子重あり
○玉簪は葉大にして秋花さく冬うらむ教ふありてそのもつは又一名白鶴仙

瞿麦（くだく なでしこ）

石竹（せきちく）

玉簪（ぎよくさん ぎぼうし）

○蒼朮の花うすと
赤し脾をとゝのへ
み湿鬱をちらし中
をゆるくす山薊と
いふ花白きは白朮也
○木賊は目のくもりを
退積塊を消を
和名とくさ板など
おろし磨に用ゆ
○山葱は一名を漏
葱ともいひ鹿耳
葱ともいふ俗に
いふぎやうじやにん
にくなるべし

蒼朮 おけら

木賊 とくさ

山葱 ぎやうじやにんにく

○石荷ハ一名虎耳
草といふ水湿の地
に生ず五月花咲
○馬勃ハ湿地くち
木のうへ至ニ生
ずのどのいたみ及
治す亦灰菰牛屎
菰とふつく
○石韋ハ湿地に
生ず葉太くして
かたく皮のごとし故
に一葉づゝ生ず
労熱邪気をつさ
とり淋疾を治す
○螺𧏖ハ一名鏡面
草といふ石上に生ず
かたちさゝ豆ごとし

石韋 ひとつば

石荷 ゆきのした

馬勃 おにふくべ

螺𧏖 まめづた

○芭蕉ハ葉落ど一葉の出る時ハ一葉焦るゆゑにまた芭蕉といふ
○苧皮をさらして布と織らせし布ハこまかなり紵同じうしともいふ
○艾ハ去菌とは秋ふきを花さく艾蒿なりて蓬蒿といふ
○蘚ハ腰背のこころなりしも治腎とおさむるにとうこくし精気まし目をあかす

芭蕉 ばせを

苧 ちよ まを

艾 がい よもぎ

蘚 ところ

○華蔓草ハまた
そのうらけまんの
かたちによく似たり
薄紅色なり三月
花さく
○鼠麴ハ小く黄なる
る花さく鼠の耳
の毛のやうなる実と
生ずる又鼠耳草と
もいふ
○羊蹄ハ一名禿
菜ともいふ又牛舌菜
ともいふ実を金蕎
麥といふ

華蔓 けまん

鼠麴 そきく ちゝこぐさ

羊蹄 やうてい ぎしぎし

○陵苕ハ木にまとふ蔓也秋に花咲色赤し又陵霄花といふ
○藍ハ葉蓼に似て大なり花さでの如し穂の中に黒き子あり六月に紅の花さく葉を採染色にもちゆ
○茜ハあかねとそむる草なり一名地血といふ又茜緋草ともいふ

茜 せん あかね

陵苕 りやうてう のうぜんかづら

藍 らん あゐ

○山薑ハ葉姜に似て花あり子ハ草豆蔻にてねハ杜若ゆゑに名美草
○澤漆ハ葉馬歯莧に似たり綠にてみどりまるき花さく毒草なり
○蓖麻ハ葉瓠の葉のごとく中空あく又茎ハ赤し秋花さき実ハ似ひをぶ実に刺あり

山薑 さんきやう あをとしやうが

蓖麻 ひま たうごま

澤漆 たくしつ たうだいぐさ

○蒼耳ハ葉茄子のごとし風湿つかさ氣ば中くし目とぬふさし志ハ子濟く
○車前ハおほば花か
と出そ七八月の比実をとる芣苡牛舌同
○龍芮ハ四五月ふ黄なる花さき実とむちぶたる豆のごとし一名地椹
○防風ハ正月ろ葉を生じ又月に黄なる花さき六月ふろき実をむすぶ

蒼耳 をなもみ

車前 おほばこ

龍芮 うしのひたい

防風 はまにがな

又珊瑚菜といふ

○紅花は血をやぶり瘀血のいたみをとめ大べんを通ず花をもつて紅とす
○積雪草は名つぼくさ葉まろく銭のごとくつるとなる連銭草胡薄荷並同
○苦参は槐に似たり花黄色にして実なる也根ふとくにがし水槐地槐同
○蛇牀は気をおぎなひ中をあたゝめ疥をおい風をさる虺牀蛇栗同

紅花 べにの花

積雪

苦参 くらら

蛇牀 ひるむしろ

○鼠莽ハ実ハ天
蓼の実れごとし
毒あり
○葛ハ粉ハ渇を止
ふづきをとゞめ胃を
ひらき酒どくを解
し大小便を利し
熱をさる
○紫草ハ九竅を
つうじ水を利しそ
まん消をかうさ
うによし一名茈
芙といふ
○鴨跖ハ野外に生
ず花あをし
碧蟬花 笪竹花
並同

○南星ハ風痰を治
し氣をやぶりこゝを
だりくゝりはしは又虎
掌鬼蒟蒻といふ
○防已ハ風湿脚氣
の痛を治し癰それ
痛を治を解離と云
○牛膝湿ふてちびを
久腰脚いたむを治す
山莧菜對節菜
と名づく
○水莨ハおそりにしは
莖をすり口に含ハお
つこあり大毒あり
○絡石ハ茎橘の如
く花白く実くろし
石をまとふ

○茴香ハ疝氣を
のぞき腰いたみのい
ゆるによし胃に
わるきに藿香同
○豨薟ハ花黄
白なり一さいの毒
虫のさしたるにハ
葉をもみて汁を
付べし
○天茄ハ一名龍葵
といふ苦茄とも
小なり六月のころ
ちいさき白花をひらき
青きまるき実のる

茴香

豨薟
めなもみ

天茄

○蒿ハ青蒿又莪
蒿らハ蘋蕭萩
同邪氣を拂ふ
○茺蔚ハ益母草
といふ湿地に生ず
○茵蔯ハ葉のう
ら白くせる九
月に細なる黄な
る花さく
○玄及ハ実を五
味子といふ枝を切
かにつけ垂ハ孫
ならぬ油の如う
に髪に付る
○地膚ハ若葉を食
らふ落帚獨帚同
此木を帚とす

青蒿 かはらよもぎ

茺蔚 めはじき

茵蔯 かはらよもぎ

地膚 はゝきゞ

玄及 さねかづら

○忍冬ハまたにまとひ葉あつく毛あり三四月花さく初白く後ハ黄なりゆゑ金銀花といふ
○茅ハ水を治し血を破り小腸をうるほし消渇鼻血下血を治すこれを茅といふ
○萍蓬ハ水沢に生ず葉ハ慈姑ににたり水栗 骨蓬同
○藻ハ水中の草大なるハ藻草のちいさきハ水薀と云る尾藻なといふ

忍冬 にんどう すいかづら

茅 ち 菅茅 かや

白茅 つばな

萍蓬 かうほね

藻 も

○蘡薁ハ山野ニ多し茎つるにして刺あり葉ハ大く太ふしてうまの蹄のごとし秋あかき実のる

○萩ハ郊野ニ生ずるゆゑ野萩と云葉ハさゝげなり花かごとし実豌豆といふ花紅白あつて大なり

萩 はぎ

蘡薁 えびつる

○石帆ハ石上ニ生ず
○莖ハくきなり
稈 同 莖の衣を
苞といふなり
草根を茇といふ
さの○なり
○薹ハふき蒿な
どのたうなり 葶
同
○葩ハはなびらなり
花片 花瓣 並同

莖 くき

葩 はなびら

石帆 うミまつ

薹 たう

○蔓はつるなり木の本を藤といひ草のなるは蔓と云
○苞はつぼみなり蓓蕾同
○蘂は花のしべなり蕊蘂ならびに同又花心ともいふ
○萼はうてななり花蔕花柎ならびに同

蔓 つる

蘂 しべ

苞 つぼみ

萼 うてな